

唯一の教育旅行専門誌

月刊 教育旅行

2022.8

連載 教育旅行研究

東京都 晃華学園中学校高等学校
[方面:沖縄県]

特集

探究的に学ぶ 「平和学習」プログラム



持続可能な平和のために ～自分ごととして考える～

教頭 後藤 純子

社会科教諭 安東 峰雄、長岡 仰太郎



校舎外観

School Data

【創立年】昭和38（1963）年

【所在地】東京都調布市佐須町5-28-1

【教育目標】

校訓)神を敬い 人を愛し マリアのように 正しく 強く 美しく

- ・カトリック精神に基づく教育
- ・質の高い全人教育
- ・家庭の精神を基盤とする教育
- ・奉仕、正義、平和をめざす教育
- ・変化に適応できる教育
- 以上のマリアニストスクールに共通する指針に基づいた教育を行う。

【全校生徒数】917名

【教職員数】112名

●学校紹介

東京都調布市にある晃華学園中学校高等学校は「汚れなきマリア修道会」を設立母体として1963年に設立された女子のミッションスクールである。カトリックの精神に基づき、質の高い全人教育を行う。学校の掲げる「ノーブレスオブリージュ」の精神のもと、神さまから自分に与えられた能力を他者のために役立てることの一環として、近年ではSDGsに関連する活動も活発に行われている。都下の自然豊かな敷地にある校舎は広々と開放的な作りになつており、生徒たちの伸びやかな成長を支えている。2012年にユネスコスクールに加盟。

実施要項

●旅行先 沖縄県

●時期 2021年4月6日（火）～4月9日（金）3泊4日

●参加生徒数 高校3年生4クラス 124名

●引率者 8名

●日程概要

- 【1日目】羽田空港→那覇空港→首里城公園→対馬丸記念館→宿舎
- 【2日目】宿舎→糸数壕→平和の礎・平和祈念資料館→旧海軍司令部壕→嘉数高台公園→宿舎
- 【3日目】宿舎→美ら海水族館→体験学習（漆喰シーサー作り・サンゴの苗作り・マンゴープ散策とシーカヤック）→宿舎
- 【4日目】宿舎→今帰仁城跡→おきなわワールド・玉泉洞→那覇空港→羽田空港
- ※この年はひめゆり平和祈念資料館は改修工事のため見学していない。

修学旅行のねらい

高校の修学旅行は、本校の教育の集大成として位置づけられている。そのため、企画・事前学習・旅行期間中・事後学習の全てで教員が関わり、独自の修学旅行プログラムを実施している。

沖縄を修学旅行先として選定した理由としては、4つのポイントが挙げられる。

(1) 沖縄での戦争の実態を知ることで、平和の意味を考え、未来に向けて積極的に平和な世界を築く。

(2) 沖縄の歴史、自然環境、生活文化、現在の問題点について学び、認識を深める。

(3) 沖縄修学旅行で学んだことを通して、現在の日本や世界、さらには将来の日本や世界についての理解を深め、自らの行動の糧とする。

(4) 学園生活の良い思い出となるように、有意義な旅行とする。

以下、この4点に則して、本校の修学旅行の特徴を紹介する。

平和學習

戦後75年以上が経過し、自らの戦争体験を通じて戦争の悲惨さを伝えてくれた語り部の減少により、既存の平和学習を維持する事が難しくなり、次世代に平和の大切さを伝

●重点を置いた活動

体験的かつ探究的な深い学びを
未来へつなぐ



対馬丸記念館を見学する生徒たち

沖縄の風土

沖縄県は、日本の他の地域とは異なる独特の自然環境や文化を持ち合わせており、それらに触れることができるのも沖縄修学旅行の醍醐味である。

本校の修学旅行では首里城跡、美ら海水族館、グスク見学の3つを取り入れており、それ以外にも、学年によって、半日民家体験や斎場御嶽見学などを行っている。また、昨今は、「やんばるの森」の世界自然遺産登録に伴い、見学コースの一つに入るようになった。

特に、印象に残る場所としては、首里城跡を挙げておきたい。首里城は、琉球王国時代に数百年にわたって政治・文化の中心地で、

語り部の代わりを担うのが、戦争を視覚的・体験的に学習できる場所を訪問することである。

本校の修学旅行では見学先として、対馬^{つしま}丸記念館、糸数アブチラガマ、沖縄県立平和祈念公園、ひめゆり平和祈念資料館の4つを取り入れている。

気孔や炊事場からは、中で生活した人々の必死に生きようとする姿を感じることができ。また、現在でも天井に張り付いているトンネル板からは爆撃の衝撃の大きさと悲惨さを見ることができる。事前学習で知る「昨今、平和がマサニエラで荒らされている」という事実も、平和の大切さを伝達し続けることの難しさを教えてくれる。

さまざまな歴史の舞台にもなった場所であり、沖縄が固有の文化・風土を持っていることを実感できる。

2019年10月31日、首里城正殿が火災により焼失した。本校は、2019年10月30日の夕刻まで首里城を見学しており、正殿前でクラス写真撮影を行っていた。その後すぐ首里城正殿という貴重な文化遺産が焼失してしまったというニュースが飛び込んできた。10月31日の朝食時には、皆で首里城復元のため、沖縄県民の心の痛みに寄り添うために祈りを捧げ、その後に募金活動も行つた。

復元中の現在であつても、守礼門をはじめとするいくつもの門や城内最大の祭祀の場所、聖牢な石垣や展望台など、首里城公園には見所が十分にあると考えている。さらに、整備された『見せる復興』では、今だからこそ見られるものもあり、訪問すること 자체が復興支援でもあるので、今後も引き続き見学をしていきたい。

2019年10月31日、首里城正殿が火災により焼失した。本校は、2019年10月30日の夕刻まで首里城を見学しており、正殿前でクラス写真撮影を行っていた。その後すぐ首里城正殿という貴重な文化遺産が焼失してしまったというニュースが飛び込んできた。10月31日の朝食時には、皆で首里城復元のため、沖縄県民の心の痛みに寄り添うために祈りを捧げ、その後に募金活動も行つた。



復元中の首里城公園内の様子

朝日新聞社の「SDGs修学旅行新聞」のサービスを活用したオリジナル新聞



新聞制作作業中の生徒たち

「深い学び」につなげる 事前事後学習

【事前学習】

「深い学び」につながる現地学習を実現するためには、何よりも事前学習が重要である。事前学習では、最初に自分たちが訪問する場所や歴史について、しっかりと確認させる。地図を使った学習では、訪問場所が南部に固定している理由を考えさせたり、沖縄の歴史を年表にまとめたり、新聞記事（朝日新聞「知る沖縄戦」）を読んで感じたことを振り返りシートに記録することで、「時間と空間の広がり」を認識させることができる。また事前学

現地学習を「深い学び」の場とするために、本校の修学旅行の事前事後学習は、学年のオンラインホームルームを活用するなどして、かなりの時間を割いている。事前学習では、沖縄の地理や歴史を学び、生徒たちが興味・関心をもつ沖縄の魅力を掘り下げるだけでなく、沖縄が抱える地域課題も推察する。さらに、2021年度の事後学習では、現地で体感した魅力や沖縄が抱える課題をSDGsの各目標と結び付け、学習の成果を新聞にまとめた。

このように本校の事前事後学習は、伝統的に探究的な要素を含んでいる。ここでは、本校の生徒たちが修学旅行の事前事後学習を通して、地域の魅力や課題をどのように自分ごとに捉え、課題解決の思考サイクルを実践しているのかを紹介したい。



生徒が制作したワークシートの一例



新聞の校正を行う生徒たち



ビーチで記念撮影する生徒たち

【事後学習】
事後学習では、事前学習と現地学習で学んだことをSDGsの観点から班ごとにまとめ、一つの記事を完成させる。生徒たちは事前学習すでに個別にテーマを設定し、前述したワークシートをまとめている。生徒たちの記事を読むと、それぞれの課題が相互に関連し、複数の視点から課題を解決することを提示する班が多くいたことが印象的である。本校の生徒は中学時代からアウトプットすることの重要性を学んでいることもあり、どの記事もタイトルの付け方が秀逸だったのも印象的だった。

新聞ではトップページや空いたスペースに、班ごとにまとめた記事とは別に、修学旅行係がまとめ

習の一環で実施するグループワークでは、探究用教材「探究×SDGs—地域の課題解決のコツ」（朝日新聞社発行）を活用し、班ごとに沖縄の魅力を抽出する。作業時は、事前事後学習の全体像と、いま何を目的に活動をしているのかを生徒と共にすることも大切であろう。

次に、各班が好きなテーマを設定し、沖縄が抱える課題とその背景について推察し、その課題を解決するためにできることをクラスで共有する。ワークシートを作成する過程で、課題となっている事象だけでなく、その事象

が起きていた背景についても考察させることができることが、現地学習での「深い学び」にもつながっていく。

こうした事前学習を経て、生徒たちは現地での平和学習や文化交流などのプログラムを経験し、自分たちが調べた沖縄の魅力を感じる。例年、現地のガイドの方々からは、「こんなに熱心な高校生は見たことがない」と言われるほど、幅広い分野について事前学習で学んでいる。

こうした現地のガイドの方々からは、「こんなに熱心な高校生は見たことがない」と言われるほど、幅広い分野について事前学習で学んでいる。

「本格的な新聞制作は、自分たちが伝えたことを文字に起こす難しさを実感しました。私たちが伝えたいメッセージ、沖縄が伝えるメッセージが、この新聞を読む皆さんに少しでも伝われば幸いです。」

修学旅行の学習を通して、生徒たちが身近な問題から課題を設定し、その解決を考えることを文字に起こす難しさを実感した。またSDGsと関連付けることで、地域の課題を生徒一人ひとりが自分のこととして捉えなおす良い機会となっている。

観光としての魅力

新型コロナ感染症流行前には、沖縄県を訪問した観光客は1,000万人を越えていた。戦跡、独自の文化や自然環境なども沖縄観光の魅力であることは疑う余地もないが、充実したリゾート施設が沖縄ブランドの価値を上げていることに触れるのも学習の一つとなる。また、環境の良いリゾートホテルに宿泊することは、何よりも生徒の思い出にも残る。そのため、宿泊先としては恩納村にあるリゾートホテルを選定している。

た記事を掲載している。校正に関わった修学旅行係は、次のような感想を述べている。

「事前学習で考えた沖縄の課題をどうすれば解決することができるのか、沖縄のよりよい未来のために今必要なことは何なのか、新聞を作り上げる中で班員と話し合って、沖縄の課題を『自分ごと』として捉え直すことができました。」